

図書館と生涯学習活動団体の関わり —八王子千人塾塾生の会を例に—

内田 彩水

本研究の目的は、図書館による生涯学習活動団体への支援の現状と課題について明らかにすることである。具体的には、図書館で活動している生涯学習活動団体所属者の活動のうち調べ学習に着目し、その現状と課題を明らかにする。事例研究として、市で認知され先進的な事例として高い外部評価を得ている八王子市中央図書館（以下、中央図書館）と生涯学習活動団体である八王子千人塾塾生の会（以下、塾生の会）を調査対象とし、文献調査と内容分析、インタビュー調査を実施した。

文献調査では公的機関の図書館や生涯学習に関する答申などから、図書館で活動している生涯学習活動団体の現状や、図書館の行う支援が資料提供や活動に関連する講座の実施が中心であることを明らかにした。内容分析では塾生の会会員による調べ学習のレポートをまとめた『いちょう街道』第1号（2004年3月）から18号（2022年3月）を対象に、図書館で活動している生涯学習活動団体所属者が行う調べ学習の傾向や特徴を調査した。内容分析の結果、インターネットを用いたレポートの割合が増加していることや、活動や調べ学習においてインターネットが普及していることなどが明らかになった。インタビュー調査では、図書館で活動している生涯学習活動団体の活動の課題を明らかにすることを目的に半構造化インタビューを行った。インタビュー調査は中央図書館の塾生の会担当者1名を対象とする個別インタビューと、塾生の会責任者のうち3名を対象とするグループインタビューとした。インタビュー調査の結果、中央図書館担当者、塾生の会責任者ともに図書館資料以外の調べ学習として現地調査を重んじていること、現地調査を通じ会員同士の関係構築や地域の再発見がなされていることなどが明らかになった。

文献調査と内容分析、インタビュー調査の結果から、図書館における生涯学習活動団体の支援の現状としてレファレンスサービスや相互貸借などの図書館サービスのほか、他の施設情報を提供するレフェラルサービスがなされていた。また、地域での生涯学習活動にあたり文部科学省の『長寿社会における生涯学習の在り方について～人生100年 いくつになっても 学ぶ幸せ「幸齢社会」～』では生涯学習の知識を持ち、地域における活動を把握し、住民の主体的な学びや活動を支援するコーディネーター人材の養成が必要であるとされており、先行研究でも指導者の養成を重視することが指摘されている。塾生の会は中央図書館担当者や他の職員・司書、塾生の会責任者および会員同士による支援環境が構築されていることから、複数人が得意分野を活かすことでコーディネーター人材の機能が果たすことができると考えられる。図書館で活動する生涯学習活動団体の支援の課題として類似団体が少ないことや確立した支援方法がまだないこと、図書館設備の不足などがある。今後の課題として他の図書館と生涯学習活動団体を取り上げ、地域や団体所属者の属性、活動内容の違いから抱えている課題や展望の比較を実施することが考えられる。（指導教員 呑海 沙織）